

- * 教会が戦争に協力した実態は数々の事実により明らかにされている。合同した日本基督教団は必勝祈願のため伊勢神宮参拝し、先頭に立って協力した。同盟教団でも、高山教会に残っていた戦時中の資料により、国民儀礼が礼拝の最初に組み入れられていたことがわかる。敗戦直後でも、当時の行動を反省するどころか、天皇に仕える気持ちが足りなかったことが原因だとまで言っている。時代の波に押し流され、戦争を正当化していった姿がある。その後ようやく1967年になって日本基督教団では戦争責任告白が出された。同盟教団は、1996年「横浜宣言」にて、過去の戦争時、教団教会は偶像礼拝の罪を犯し、戦争に加担したことを告白し公に悔い改めた。戦時中の教会や教師、信徒を決して批判することはできないが、現在、戦前の状況に酷似してきていることを見る時、私たちの問題として深く関心を持ちたい。
- * 「主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」（イザヤ2：4）国連本部の前庭の石碑に刻まれているこのみことばは、神は平和の神、平和の源であって、終わりの日にはサタンが打ち滅ぼされて永遠の平和が来ることが預言している。しかし、神の計画の実行者は世界の諸国民であるから、神の平和に向かって私たちが意識して努力していかなければならない。聖書の神にこそ平和があることを伝えていかなければならない。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」（マタイ26：52）
- * 「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてください。」（ローマ16：20）私たちの神は戦争を好まれない。愛と平和の神である。その神は「あなたがた」すなわち、私たちの足でサタンと闘い、勝利するようにしてくださるよう計画されている。私たちが平和の責任と使命を負っているということである。神に信頼し、勇気をもって行動しよう。